

第2回放課後子ども教室研修会

目的：放課後子ども教室推進事業の先進的な実施状況を見学したり、成果や現状について協議したりするなど、実践を学ぶための研修会を行い、事業に携わるコーディネーターやボランティア人材の資質の向上を図る。

実施日：平成29年10月13日（金） **場所：**大玉村農村環境改善センター **参加者：**45名

講話 「子どもたちとのかかわり方について」

福島県学校教育指導員 山本和宏 氏

1 子どもたちの現状 ～さまざまな要因が引き起こす一般的な傾向～

近年忙しく、疲れている子どもたちが多いと感じる。無気力、無責任、無感動、無表情になってきている。無表情の原因として、人と関わる場面が減っている。遊びの中でも集団で遊んでいるにもかかわらず、それぞれが違う遊びをしていることも多い。メディア過多の影響で、睡眠相の未確立や必要最低限の言葉しか発しない「酔っ払い言葉」などの乱れも見られる。また、自己中心的である考え方や誰かに頼らないと折り合いがつけられない他人任せの風潮もある。



2 理想的なかかわり方を求めて ～百人百様～

- ① 一人一人対応のポイントが違う。だからこそ特性を知ることが大切である。そのために「常に子どもたちとともに」の姿勢で接し、信頼関係の構築につなげたい。
- ② 職員同士の共通理解を図り、「駄目なことは駄目」と毅然とした態度で接する場面も必要である。
- ③ ほめることは難しい。しかし、良い変化を見逃さず、思いっきりほめることが大切である。
- ④ 決めつけた対応は厳禁である。注意することが続いている子どもでも、公平な対応が求められる。

「やっぱりお前か・・・」とってしまう決めつけは、心を傷つけてしまうことが多い。

- ⑤ 自己決定の場を与えること、基本的な生活習慣の励行、感謝の気持ちを持つこと、親や教師以外の人からの学びを大切にすることが、これからの子どもたちの生活には必要なことである。



3 参加者からの質問に答えて ～上手なほめ方/叱り方～

- ① 愛情を持って、他人との比較はしない。叱りすぎないことも大切。
- ② タイミングを逃さない。即時に対応することが基本。
- ③ 一貫性を持つこと。同じ対応をする。（叱り方、職員の共通理解）
- ④ 子どもを納得させること。何がいけなかったのかを説明したい。

4 おわりに

子どもと理想的なかかわりを求めて常に関わっていただいている皆様の日頃の活動、支援にとっても感謝しています。子どもから信頼される存在になっていただければと切に願います。



事例発表 「大玉村放課後子ども教室の取組」

大玉村教育委員会 教育部生涯学習課 社会教育係長 渡辺美恵子 氏

1 大玉村放課後子ども教室の経緯

平成21年9月よりスタートした。村内2つの小学校区のそれぞれに「大山子ども教室」「玉井子ども教室」を開設。両教室とも学校から徒歩5分程度の場所にある公民館等において実施している。

2 教室のねらい

- ① 放課後の安全な居場所作り
- ② 異学年児童、地域住民との交流を通じたコミュニケーション力の育成
- ③ 学習習慣、読書習慣の形成
- ④ 豊かな経験を生かした学習意欲の喚起

3 実施状況

4～6年生の希望者を対象に、毎週金曜日の放課後に活動している。大山、玉井ともに年間31回程度活動している。

4 主な活動内容

畑の活動、物作り体験、おやつ作り体験、スポーツ体験、レクリエーション、学ぶ活動

5 これまでの成果

- 住民の方々とのふれ合いにより心の成長がみられる。
- 縦割りや異学年での交流によりリーダー性の発揮につながっている。
- 子どもたちの素直な反応が、ボランティアの方々のやりがいにつながっている。
- 情報を発信しているため、活動の様子が地域に周知されている。

6 これからの課題

参加児童数の減少、学校や児童クラブとの連携、ボランティア人材の確保

7 地域学校協働活動事業を生かして

- ネットワークを生かした地域人材（ボランティア等）の確保
- 子どもも大人も満足できる活動内容の充実
- 地域と学校が連携・協働して子どもたちを見守っていく。



実践参観 「玉井放課後子ども教室」

本時の活動は、大玉村の地域包括支援センターに所属している大玉村認知症キャラバンメイトによる「認知サポーター養成講座」でした。はじめに宿題に取り組んでから、講座に参加しました。講座内容は、子どもたちに分かり易いように演劇やマンガを交えながらの講座でした。放課後子ども教室での実施では初めての試みでもあり、子どもたちは、講座に真剣に聞き入っていました。放課後子ども教室に登録している保護者も、ボランティアとして教室に参加していただけるように募っているため、この日も参加している保護者がいました。



【参加者からの声】

- ・子どもたちとのかかわり方について様々な悩みがありました。でも、今日話を聞いてとてもスッキリしました。「ほめる」を大切に楽しく活動していきたいです。実践発表や参観では、新しいことに挑戦していることがわかり、とても参考になりました。